

【レジュメ】

2005年4月7日

特別講座「人権問題」 “DIFFERENT”, “SAME” AND “SHARE”

佛 教 大 学
教育学部長 西 岡 正 子

I. 人権と人権教育

1. We are different. We are the same. We share one world.

2. 人権の3つの性格

- ① 人権の個人的性格
- ② 人権の普遍的性格
- ③ 人権の能動性

3. 人権教育のための国連10年（1995年～2004年）

「知識と技術の伝達および態度の形成を通じ、人権という普遍的文化を構築するために
行う研修、普及および広報努力」

II. 人権と生涯学習

1. ローマクラブの「革新型学習」 『限界なき学習—ヒューマン・ギャップを埋める』
(1979年)

2. エーリッヒ・フロム (Erich From) の「ある存在様式」

3. エットーレ・ジェルピ (Ettore Gelpi) の「抑圧と解放の弁証法」

4. ユネスコの学習権宣言 (1985年) とハンプルグ宣言 (1997年)

III. 人権とハラスメント防止

1. カナダ、アメリカの大学におけるハラスメント防止

2. 佛教大学におけるハラスメント防止

“Yourself is the best thing to be.”

“What really counts is that we love each other and try hard to make one another happy.”

エットーレ・ジェルピ、前平泰志訳『生涯教育—抑圧と解放の弁証法』東京創元社、1983年 エーリッヒ・フロム、佐野哲朗訳『生きるということ』紀伊國屋書店、1977年 讃岐幸治・住岡英毅編著『生涯学習社会』ミネルヴァ書房、2001年 西岡正子他著『新しい時代の生涯学習』有斐閣、2002年

Josef Palecek, *The Surprised Kitten*, Press New York : Parents' Magazine Press, 1974

Leo Lionni, *Pezzettino*, New York : Pantheon Book, 1975

“DIFFERENT”, “SAME” AND “SHARE”

教育学部長
教育学部教授 西 岡 正 子

おはようございます。どうでしたか、入学式から今日まで。

祖山参拝はいかがでしたか。教育学科では祖山参拝後、奥の雪香殿という建物でいろいろな行事をしました。楽しかったです。教育学科の人、手を挙げてもらえますか。ありがとうございます。各学科で様々なことをなさったと思います。何もなかった学科もあるかもしれません。これから授業が始まりますと、各学部学科、コースでの勉強が始まります。教育学科で祖山参拝の後したゲームで私は、まだうなされていきます。名前を覚えなさいといけなかったのです。まだ覚えていきます。えりかちゃん、れなちゃんとなりの、のりこちゃんと言つて、グループで輪になつて順番に名前を言つていくのです。そんなゲームしたことある人、手を挙げてください。ないですか。教育学科の人はしましたよね。みんな名前をきちんと覚え、言ってみましたね。私もが

んばつて覚えましたが、大変覚えにくかったです。ただ私たちのグループは、その後で自己紹介をしました。そしたら急に名前とその人が結びつきました。単に名前を暗記するのではなく、ひとりひとりの違いがわかるとおもしろくなりました。最初のゲームでは、名前だけ必死で覚えていたので、とても覚えにくかったです。でも、北海道から来た関西弁がわかりにくくて困っている、あれが好きでこれが嫌いのかずのりくん、というように名前とその人、一人ひとりの違いが結びつく大変覚えやすくなるというのがわかりました。また、自己紹介をしているとき、一番盛り上がったのが「それぞれ何にはまっているか」ということを言ったときです。そのときに歓声があがりました。それは一人ひとりが全く違う、ユニークなものに、今のあなたたちの言葉で言う、「はまっている」からですよ。一人ひとりが違うところ、今日のレジュメを見てく

だいたい、"different" それぞれが違うんです。一人ひとり違う、"different" というところから出発しているのです。でも、私のこどもが日本の幼稚園に通っていたときは、一斉に「みなさんおはよう」と言い、何でも一斉に皆と一緒にしなければなりませんでした。踊りも一糸乱れぬように、同じようにしなさい、と言われました。一斉にするということや、皆同じだということから出発して教えられていたようです。どうでしょう。それは、それぞれの教育方針と言えます。

アメリカの幼稚園での話をします。私のこどもはみなさんより小さい子もいますが、大きい子もいます。皆さんより大きい子。その子はアメリカの幼稚園にたまたま二歳半からいかなければなりませんでした。そのとき大変おもしろい経験をしました。二歳半の子が集まって毎朝ミーティングをするんです。えらいことだと思いました。毎朝ミーティングですよ。二歳半の子が自分の哲学について述べるんです。毎朝ですよ。八人ほどグループになって、輪になって、一クラス八人ですからね。

"My own philosophy." 私の哲学。どういう哲学かというところ朝ごはんに対する哲学。朝ごはんはフルーツを食べるべきだという自分の考え。朝ごはんには牛乳を飲むべきだという考え。皆さんは、ありますか。そこ前の座ってる君。白とブルーのジャージの上着てる人。何かあなたの朝ごはんの哲学ってありますか。特にない。じゃあ、あなた、ないかな。誰か私の朝ご

レジュメを見てください。アメリカで使っていた絵本です。

The Surprised Kitten 『びっくりねこちゃん』といいます。『サライズド・キトゥン』『びっくりねこちゃん』知ってる人、手を挙げてくれますか。知りませんか。絵は見えないと思いますが、内容だけいいです。また興味のある人は、一ノ号館五階の西岡研究室に読みにきてください。白猫一家に黒猫ちゃんが入ってきます。黒猫のベッパっていうのはね、これ名前なんです。が、ほんとに黒胡椒、黒いのでベッパといっています。このたくさんの白猫一家の仲間に入れてあげるんですが、一緒に遊ばせん。なぜか。外の雪の中でかくれんぼしたら黒猫が一番に見つかってしまいます。じゃあ、basement、地下室でかくれんぼしたら白猫が見つかってしまいます。ある日、台所で黒猫がもう何も食べられない、悲しい顔をして座っていました。『どうして僕だけ君たちと違うんだろう』と言うわけです。その可哀想な黒猫ちゃんを見て白猫一家はどこに行つたでしょう。地下室に飛び込みます。地下室の墨の粉で真っ黒になって帰ってきます。どんなに喜ぶだろうかな、黒猫ちゃんは。そして、あつと驚いたことに黒猫ちゃんはメリケン粉で真っ白になってました。お父さん猫が言います。ここに書いてあることです。レジュメの一番下のところに書いてありますね。"How silly we are wanting to be like anyone except ourselves." "自分自身以外のものになろうとするなんてなんて馬鹿なんだろ

はん哲学、朝ごはんは味噌汁飲むべき、なぜならっていうの持ってる人いますか。このように、何に關しても自分の考えを二歳半から持っていてそれをはっきり述べる。そういう教育がされていました。一人ひとり違うんです。朝ごはんの哲学も。ちなみに私の朝ごはん哲学は、朝お餅を食べます。腹持ちがいいからね。佛科大学で働いていると、お昼忙しくて食べられないときがあるけど、朝お餅を食べておけばなんとかしのけます。

絵本を読んでもらってる二歳半のクラスが、その絵本を読んだ後、自分の考えを発表します。また、年間を通して、毎週テーマがありまして "myself, my telling" が一番最初のテーマです。"私自身、私の気持ち"。私は、他の人とどれだけ違っているかということを言います。この中で誰か、私は誰かとまたは他の人たちと、ものすごく違っている所はこことこことここですって言える人、いますか。じゃあ、頭の中で考えて下さい。それだけ二歳半の時から違っていることを教えられます。だけど違っているからこそ何でも一緒に "share" しなければならぬ。何でもではないですが、いろんなものをね、仲間。"share" というのは、「一緒にする」「共有する」ということです。一緒に共有していきましょう。"Different" と "Same"。"We are different." だけど "We are the same." そして "We share one world." 同じ世界にいるからと、いうことをいろんな人たちがいるアメリカでは、幼稚園からそういう教育をします。

う」と言うんです。"Yourself is best thing to be." 書いてますね。「あなた自身であることが一番いいですよ。他のものになろうとするようなことはやめましょう」ということを言います。そして一緒に仲間として遊ぶ。"yourself" あなた自身でいることが一番いいことなんです」と、こういう絵本を読みます。

それから皆さんは、レオニオン (Leo Lionni) を知ってますね。レオニオン二知っている人、手を挙げてください。小学校行った人知ってるでしょ。日本の学校では、国語の教科書に彼の作品が載っています。では『スイミー』知ってる人、手を挙げてください。たくさんいますね。ありがとう。『スイミー』はレオニオン二の、私の大好きなレオニオン二の作品です。ところが面白いんですよ。『スイミー』の受け取り方。ちょっと後で説明します。『ベツエツティノ (pezzettino)』っていう、レオニオン二、この『スイミー』を書いたレオニオン二の絵本があります。これも谷川俊太郎訳で、大変有名になってますから、ご存知の人もあるかと思いますが。日本の本には、「じぶんをみつけたぶぶんひんのはなし」という副題がついています。ちょっと時間がないので簡単に話しますと、ここに書いてある部分品、小さいかけらなんです。この小さいかけらちゃんがいんなものの中に行きます。「私は誰のかけらなの」と言っ。足の速いものの中に行つて「私はあなたの

一部ですか」と言います。そしたら「そうじゃない、部分品が足りなく速く走れるはずがないだろう」。泳げるものところに行ったり、強いものところに行つて「私はあなたの部分でずか」と言うんですが、全部「違います」と言われます。そして賢いものところへ行くと、ある島へ行けと言われます。夜恐い海を渡って、今の皆さんの言葉で言うと、へろへろになって、ごつごつした岩の何もない山に行きます。そしてベツエツティノは山を登ります。山を登って降りようとした時に何が起きましたか。何が起ったと思いますか。皆さんが作家だったらどうしますか。かわいそうにベツエツティノはもうふらふらですから、こけてしまつていくつかの部分品に分かれて、粉々になってしまふんです。そしてそのかけらを集めて、「あつ、自分はいろんな部分品が集まつたひとりの、ひとつの自分なんだ」とわかつてボートに乗って帰って行きます。少しでも早く家に帰ろうと一晩中彼は漕ぎました。そしてものところに戻るとみんなに「僕は僕なんだ」と彼が叫ぶと、「良かったね」といつて迎えてくれます。これが「I am myself.」です。「I am myself.」「私は私自身なのだ」と言うことです。それぞれみんな違います。違う一人ひとりがたくさんいるということを幼稚園からこういう絵本で学んできます。

ところがね、『スイミー』でみなさんどういうことで習いましたか。小さな魚も団結すると大きな魚をやっつける。みんな

いで行きます。大事なものは海の中であんな自分とは違ういろんな動物にあつて、生き物にあつて、成長していくところなんです。レオ||レオニはそれを強調しているのです。だから、英語の本では二つだけ単語が大文字になってるんです。しかし、日本語に訳したにはそうなつていません。何が大文字になっているか。「See」見るという、S, e, e の「See」・・・swim and play and See things. 見るという。そしてもうひとつ。もうひとつ何だと思いませんか。「See」が自分で見るということ。そしてもうひとつ「we must」わたしたちはーねばならない。なんだと思いませんか。大文字になっているの。「Think」です。「We must Think of something.」「See」と「Think」だけが、このように大文字になっているのです。教科書で『スイミー』習った人、もう一度この英語の原著『スイミー』読んでください。いろんなことを学んできたスイミーが小さな魚が集まって大きな魚の形をした目になっていく。学んできた自分が目になってあげて見て、考える、ということの重要性を述べているといわれています。皆さんが捉える、捉え方でいいでしょう。捉え方も人によって違ってくるでしょう。というように異なるということ。す。「We are different.」そして考えるということ。違う私たちが「We share one world.」の同じ世界でどうして生きていったらいいのか、ということが大切なのです。もうひとつ、日本の絵本をみてみます。子どもと一緒に家族

一致団結しましょう。小さな力をあわせましょうというのを小学校で習います。確かにそれも大事なことです。それだけじゃないんですね。レオ||レオニがここで言いたかったことは、もう一つあります。なんだと思いませんか。スイミーを勉強した人ではんとはレオ||レオニはこれがいいたかったんだと聞いたことある人、手を挙げてくれます。学校で習ったのとは別に、こんなことだったというの知ってる人いませんか。というかレオ||レオニの『スイミー』を読んでみなさん話し合いましたか。

話し合つたときどんな意見がでましたか。先ほど副学長の池見先生が私が一昨年度カナダにいたことを紹介して下さいました。カナダの大学の客員教授で一年間過ごしました。そこで発見したこと、小学校、中学校の学習内容や学校の調査をしましてね、読書っていうのは：ちよつと話がそれますが。読書というのは本を読んで終わるというのではないんですね。いつ完結すると思いますか。誰か。カナダの教育で読書というのは、どうして終ると思いますか。それはね、本を読んだ後みんな話し合つて終わります。みんなで話し合つてそれぞれの本に対する自分の考えを述べるまでは、読書は完成しないのです。それが読書なんです。台湾でも読書とその後の話し合いを重視する読書活動が展開されています。

この『スイミー』の中で、スイミーは泳いでいたら、大きな魚に仲間が全部食べられてしまふんです。それで、ひとりで泳

で日本に帰ってきました。幼児の個性を伸ばすエースひかりのくに」を読みました。「ひかりのくに」を知ってる人いますね。この本でみなさん勉強したでしょ。さすが日本。科学の「花と友だち蓮華草が咲いた」。見て下さい。とてもきれいな写真に、すばらしい解説がしてあります。科学の芽を伸ばす。よくできた絵本です。ところが、後ろの物語を読んでびっくりしました。今まで手に取ってきた本と全然違う本を日本の幼稚園に行った時に子どもが持つて帰ってきました。最初の号を四月に渡されました。そのタイトルがね、なんだと思いませんか。「それじゃばくらのなかまだね」どうしたら仲間になれるのでしょうか。小熊のクーは「小熊園に行く時間よ、早く着替えなさい」と言われてパジャマで出かけます。そしてみんなが「僕らと違うから仲間に入れてあげない」と言います。仕方ないからクーはみんなと反対の方向に行くと、縞々のパジャマだから縞へびと一緒だ。へびが「仲間だ」と言つて追いかけてきます。次は、トラが縞だから一緒だつて、怖い目にあります。雷さんとパンツの縞が一緒だからといってクーは、かわいそうに逃げまわります。こんどはおばけが出てきます。というように、「それじゃばくらのなかまだね」と、外見で仲間に入れてあげようといわれて、あわててクーは「急いで急いでお家に戻り、急いで急いでパジャマを脱いでシャツを着て、急いで急いで小熊園に走って行って」お願いしました。「みんなと同じ服になりま

した。ばくも仲間に入れて」と言ったら、「それじゃばくらのなかまだね」と、仲間に入れてもらったという本を持って帰ってました。本によってもいろいろあるということです。どっちがいい。これも大切なところがあるかもしれない。それはみなさんで考えてください。

そこでどうしてこんなに違う人たちが違う我々がどのように暮らしていったらよいか、これはノルウェーの教科書です。ここに一年生から六年生までの六冊と教師用指導書二冊の八冊があります。どの時代には世界の人口がどれくらいで、どういう法律が順番に作られて、というようなことを学んで行きます。歴史の中でどうして様々な事象が起こるようになったのか。たとえば差別ですね、なぜ、どのように、この差別が起こるようになったのかという話が載っています。大変面白かったのは、私が大人になってから知ったことを小学生に討論させていることです。「ひなわくすぶる」ってなんでしょう。一七八九年に私たちは市民革命が起こって、みんなが平等になったんだと、初めて市民が権利の宣言をしたんだということを習いました。ところがそうじゃなかったんだということです。きちんと調べていけばあそこには有色人種や女性が入ってなかった。五年生のこの本「魔女狩りから参政権まで——ヨーロッパ女性史」の「フランスの女性たち」というところに書いてあります。三つのグループのうち貴族と聖職者は、税金を免除されていた。フラン

ことがされている。そういうケースが六年生用「連帯か抑圧か——第三世界の女性たち」に全部載っています。同じ年令の子がされているならそれは知るべきだという議論の下に載せられました。ただこれらも、それはよくないから直ちに止めさせるべきという書き方ではなく、判断はこどもたちが本を読んでディスカッションをして、というところに委ねてあります。

どうしてこんなに人権というのが大事にされないのか。人権とはなにか。人権には三つの性格があります。第一の人権の性格というのは「人権の個人的性格」です。先ほど池見副学長が紹介してくださいました、『生涯学習社会』の「人権教育と生涯学習」の章に書いていますが、「世界人権宣言」第一条と「日本国憲法」第一三条に規定されているように、「人間は一人ひとりが尊厳をもったかけがえのない存在であり、人権はその尊厳に基づいてすべての人間が生まれながらにしてもつ固有の権利であって、われわれ一人ひとりに属するものである」のです。これが、「人権の個人的性格」です。だからあなたがた一人ひとりが持つてゐるのです。

ここに谷川俊太郎訳の「世界人権宣言」(アムネスティ・インターナショナル支部、金の星社、一九九〇)という絵本があります。絵本には人権宣言解り易く描いてあります。宇崎竜童知ってますか。この本には宇崎竜童が「ひとは誰でもいつでもどこでも鳥のような自由な存在なんだ、それを君たちに伝えた

ス国民の九八%を占める第三身分の人たちが、人権宣言を作りました。「すべてのフランス人は法の下に平等である」と。ところが実際はお金のない人や、有色人種や女性が入っていません。その他いろいろ条件がありました。女性はデモをし、運動をしたけれども女性が入ることができなかった。挿絵には女の人達が、すなわち町のおばさんたちが行進しています。どうして女性が入ってないのか。そこでいろいろ女の人たちが意見を言います。女性のための権利の宣言を作った人もいます。ところがこの時にいろんな法律が作られて女性が集会をしてはいけない。そのような法律ができてこの時にかえって完全に女性は省かれてしまったというようなことが詳しく書かれています。五年生で習います。

世界の人たちの中で、みなさんはもうご存じだと思いますが、今でも、この瞬間に火あぶりにされている女の人があります。それに近い残酷なこともされている。それに近い残酷なことってあるかな、でもあるんですね。知ってる人は知ってるでしょう。それに近い残酷なことをする慣習のある国では、女の子がどのようなことをされているか。どうしてそんな残酷なことを六年生に教えるのかという議論があったのですが、六年生と同じ子が今この瞬間火あぶりにされている場合がある、ある地方のある地域のある国、知ってますよねみなさん、そしてそれに等しいような残酷なこと、ここではいいませんが、そのような

い」ってメッセージを書いてます。第一条は「わたしたちはみな生まれながらにして自由です。ひとりひとりがかけがえのない人間である。ひとりひとりが違ってひとりひとりが大事なのだ。その値打ちも同じです。だから互によく考え助けあわなければなりません」と。

そしてもうひとつの性格は、「人権の普遍的性格」です。何でしょう、普遍的性格というのは。普遍的性格というのは第二条に書かれています。「すべての人は人種、皮膚の色、性などいかなる事由による差別を受けることなく、権利と自由を享有することができ」と。すなわち、すべての人間が平等であり、人種、性、出生などの違いにかかわらず等しく人権を享有出来ることは、人権がすべての個人に適応される普遍的性格をもつことを意味します。絵本には「差別は嫌だ、わたしたちはみんなの違ひによって差別されるべきではありません。また、どんな国に生きていようと、その権利に代わりはありません」と書かれています。私が一昨年暮らしていたカナダで、論争になっていたのは結婚です。異性同士の結婚はみなさんもよくご存じでしょうが、同性の結婚をどう認めるか。教会での結婚が結婚なのか、市民として市役所や州や国が認めるのが結婚なのか。結婚という概念や、性のアイデンティティの問題等です。宗教・人種・言葉・人の皮膚の色の違いによって差別されるべきでは

ありません。そして大事なことはこの普遍性というのは、それはどこの国に生きていようと、どこに住んでいようと、滋賀県の人であろうと四国の人であろうと北海道に住んでいる人であろうと。人権というのは、それぞれ一人ひとりがもっていて、どの人にも認められるべきだということです。

三つ目。「人権の能動性」ってなんででしょうか。人権を守るのには義務があるということです。すなわち人権の義務的性格です。普遍性を持つ権利ですが同時に義務としての側面を併せ持つのです。つまりどういうことかという、だれも人権を与えてくれないということです。持っているものですがね。それを守るようにするのは誰ですか。私です、あなたです、ということ。あなた達自身が、私達自身が、人権を守る義務がある。国家や自治体を構成する一人ひとりの個人の絶え間ない努力によって初めて実現可能なのです。日本国憲法第一二条にも書いてあります。「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によって、これを保持しなければならない」と。つまり最終的な責任はあなたにあるわけですよ。私にもありますが。人権というのは自分たちで守っていく義務があるわけです。この三つ目の義務を果たす為に、具体的にどのように書いてあるかといいますとね、第二八条に絵本では、「この宣言が、口先だけで終わらないような世界を作ろうとする権利もまたわたしたちのものです」と。そういう世界を作るのも権利

だということが大事ですね。私達はみなすべての人たちの自由と人権を守り、住みよい世の中を作るための権利を持っていると、きちんと書いてあります。そして人の権利を第三〇条は、絵本では権利をうばう「権利」はない、すなわち「この宣言でうたわれている自由と権利を、ほかの人の自由と権利をこわすために使ってはなりません。どんな国にも、集団にも、人にもそのような権利はないのです」と書いてあります。しかしここに書いてあるようなこと、なんでこんなことが守られないんでしょうか。この人権の絵本には「人はひとりでは生きていきません。わたしたちはみな、お互い助け合って生きています。けれども人は自分のしたいことをするために、たがいにおさえつけあい、傷つけあい、時には殺し合いさえする生きものです。でも地球はひとつです。わたしたちは力をあわせていっしょに生きていかなければなりません。そのためには、たがいに何を守らなければならぬか。それを言葉にしたのが「人権宣言」です」と書かれています。

でもどうでしょうか。世界は。このようなことが守られていますか。守られていないですね。ではどうしたらよいかというのが人権教育です。人権教育のための国連一〇年というのがありました。一九九五年から二〇〇四年です。私達は学ばないといけないですよ。人権とはどんなものか、人権を守る為にどうしたらいいか、ということ。私達の力で学んでいかなければ

ならないのです。こんなおかしな世の中をなんとかできるのは学習しかないというわけです。そこが人権と生涯学習の関係です。ローマクラブ知ってますか。ローマクラブというのは、世界の知識人の集まりと言われています。ローマクラブは一九七二年に『成長の限界』という報告書を出しました。もう地球は駄目ですよ。エネルギーは枯渇し公害は蔓延し自然環境は破壊されどうにもならない。どう思いますか、皆さん、もう世界は駄目かな。戦争も繰り返されるし。このような状態で、どうしたらいいでしょうか。ローマクラブは一九七九年になって、なんとか人間が生きていけるのは『限界なき学習』だという報告書を出しました。もう仕方ないと、学習するしかない。私達がですよ。誰か特別な人が学習するものではありません。私達みんなが学習して、考えて参加して社会を作った時、初めて私達がこの地球の上で生き残れるんだということです。『限界なき学習』ヒューマンギャップを埋める』ということを書いてあります。結局この混沌とした世の中では、それぞれが能力を伸ばしそしてそれぞれが参加して生きていくしかない。この話ってどこかで聞きませんでしたか。入学式で福原学長がおっしゃいましたね。共生、それぞれの能力を生かして、それぞれが生きていく仏教のお話をなさいましたね。それと通じています。

それからレジユメの二番。生涯学習。生涯学習といいますが、

どんな生き方が生涯学習か。というのは「ある生き方」をしようということ。『ある生き方』と「持つ生き方」どんな生き方だと思いますか。アメリカに居た時日本人から一番に聞かれました。「西岡正子です。こんにちわ」と挨拶した後、日本人の人からなんて聞かれたと思いますか、一番に年齢かな、子どもの数かな。アメリカで日本人に会った時に一番に聞かれたことは「どちらからおいですか」「どこの大学を卒業されましたか」「あなたはこういう学歴を持っていますか」ということでした。「持つ」ということです。お金を持っている、持ち家かどうか、知識どれだけ持っているか、財産も持っているか、学歴をどれだけ持っているか、ブランド物どれだけ持っているか、服をどれだけ持っているか。その人じゃなくて持っているものが重要なのが「持つ生き方」です。「持つ生き方」同士だったらあなたとわたしの関係はブラダとヴィトンの関係です。私はブラダ、あなたはヴィトン持っているの。私という西岡正子とだれかAさんとの関係でなくて物と物との関係になつてくる。そうじゃなくって「ある生き方」をしましようというのがフロムのある存在様式です。「ある生き方」は常に変わります。私自身が成長して学んで変わる生き方です。だから一人ひとりの違いが重要になってきます。その人がどれだけ人と違うものを持って、そしてその人がどれだけ成長して変化していくか。「ある学習」と「持つ学習」はどれだけ違いがあると

思いますか。みなさん「ある学習」をしてください。「ある学習」と「もつ学習」ってどんなことをイメージしますか。今の話からだったらちょっと難しいかもしれないですね。「もつ授業」ってどんな授業でしょう。「ある授業」ってどんな授業でしょうか。思ったことを言ってみよう。急に言われても困るかな。

「もつ」っていうのをこのエーリッヒ・フロム (Erich Fromm) が言っているのは、ただ知識を暗記し、ノートに書くだけの、授業ですね。勉強して覚えます。それで試験が終わったらぱっと忘れるのです。「ある授業」は先生の言うことを聞いて自分が変化します。あれ、おかしい、わたしはそんなこと思ってたかった、そう思う前には先に勉強しておく必要がありますよね。えっそうなのか、なるほど、というふうに学び反応して変化していく授業、それが「ある授業」です。常に変化して成長していく授業というのを「ある」といっています。というようにわたしたちがとにかくこの世の中で人権を大切にして一人ひとりを大切にして生きていく、そういう世界を作っていく。作っていくには学ぶということしかない、ということをもローマクラブもユネスコ生涯学習の基本的な考えとなるフロムも言っています。レジメにありますユネスコのエッソーレ・ジェルビ (Ettore Gelbi) という人も述べています。人権というものを大切にしないで学習なんてありえない、ということを行っています。時間の都合で省略します。そしてユネスコの学習権宣言。みなさ

達です。私達一人ひとりが学習して動いて私達の社会を決めていく、生涯学習社会を作る。それがハンブルグ宣言です。

祖山参拝行きましたね。行った人手を挙げてください。そのときにお坊さんの話ありましたね。もちろん佛教大学の学長さんもお坊さんでとてもよいお話を、法然上人のお話して下さいました。もう一人、偉いお坊さん、御門主の代理という方がお話ししてくださいましたね。お話を聞いてみなさんどう思いましたか。私はびっくりしました。こんなことを若い一年生に話して下さると思って大感激しました。みなさんはどのようにとられましたか。「このごろ学生さんの姿が見えない」「声がハッキリ聞こえてこない」とおっしゃいましたよね。これは先ほどから言っているもつと自分で立って、自分で歩いて、自分で声を出して、自分で考えて、自分の意見をといてやることですね。みなさんはどのように受け取ったのでしょうか。大変有意義なお話でしたよ。

ほんとはもつとお話したいのですが、する必要はないと思います。これからみなさんはいろんな授業の中で学習していけます。その中でひとつひとつ掴み取ってやって下さい。人権とはなにか。人権が守られる社会を作るにはどうしたらよいのか。一人ひとりの違いを生かす社会を作るのはどうしたらよいのか。それは誰がするのか。私です。あなたです。誰もしてくれませんが。自分たちで作っていくのです。このエッソーレ・ジェルビ

んはこれから学習をしていきます。嫌だなあと思っている人がいるかもしれませんが。人権を抑圧されて、人間として生きていけない人が世界には沢山いるのです。そのような人たちが生きていくためには学習することが必要なのです。だから学習する機会を与えましょう。学習する機会を保障して行きましょう、というので学習権宣言というのができたのです。学ぶということとはすなわち学習する権利は生きるという権利なのです。学習していこう、学習によって大きな問題を克服していこう、というのが国連、ユネスコ、ローマクラブ、世界の大きな考えです。それにしては現実には悲惨ですね。もつともっと多くの人が学習しないといけないし、多くの人に学習する権利が与えられなければならないと思います。そしてハンブルグ宣言というのがあります。このハンブルグ宣言で述べているのは、そのような学習できるような社会は誰が作るのかということなんです。人が学習できるような社会を誰が作るのか。生涯学習社会を作りましょう、みんなが学校に行って勉強できるようにしましょう。一昨年いきましたカナダは学校に行かないで勉強する権利を保障しようというような方策がたてられていました。じゃ誰が保障するのかということです。このユネスコのハンブルグ宣言では、それは私達だということです。政府にしてもらってもない。政府は私達が作るのですから。自治体の長に頼むのでもない。自治体の長は私達が決めるのですから。結局誰ですか。私

という人は生涯学習社会という新しい社会を誰が作るのか、誰も作ってくれません、あなたが自分で考えて作りなさい、ということを行っています。そこで一番大事なことはここに出ました“what really counts is” わたしたちはわたしたち自身であなただとは別です。わたしはわたし、あなたはあなたです。そしてそれぞれが違います。だけど “What really counts is that we love each other and try hard to make one another happy.” 自分のことだけ考えるんじゃなくてさきほどの猫の話にあるように、相手のことを考える。人権宣言にもあります。相手の人権を守ることによって自分の人権も守られるのだ。そういう社会を作るのは自分だということです。大いに授業に出て学んでください。そして変化し、成長していきましょう。どんな社会を作っていたらいいのか、自分で考えて、自分で動いていきたいと思います。

最後にⅢの人権とハラスメント防止について。パンフレットをみなさんもらわれたと思います。この説明をさせていたいただきます。ストップセクシュアルハラスメントと書いてあります、ハラスメントっていうのは嫌がらせです。入学式の時に貰われましたから持っていると思います。読んでおいてください。困ったことがあったら相談して下さい。ただしこれって完璧でしょうか。これもわたしたちが作ったものです。ひょっとしたら不備があるかもしれませんが。あなたが考えて、不備があったら

直して、より良いものをみんなで作っていきましょう、ということ。ここに相談の窓口が書いてあります。ハラスメントというのは嫌がらせです。これね、おもしろいことに、セクシユアル・ハラスメントという言葉ができるまではね、セクシユアル・ハラスメントがわからなかった。とつても嫌なことをされる。学校におれない。仕事できないし、会社を辞めたいといけない。だけどなんだかわからない。自己都合で退職したら退職金は少ない。仕事を続けないと、食べていけない、こども養えない、けどとてもこんな嫌がらせされるのでは勤めておれない。辞めていきます。セクシユアル・ハラスメントという言葉ができて性的嫌がらせという言葉ができてからセクシユアル・ハラスメントから人々が守られるようになったのです。言葉って大切ですね。これも勉強です。どんどん勉強していつて下さい。しっかりと読んで困ったことがあれば相談に行ってください。そしてその中でまだ不備があると思えば、皆さんでどのように直したらいいかを考えてください。

ここにカナダ・アメリカの大学におけるハラスメント防止とこのを書いていますが、時間がある時間なので二分で紹介します。カナダの大学で卒業式にも行きました。客員教授だから卒業式に出なさいと言われて、面白いガウン着せられて、スコットランドのバグパイプに先導されて教員達と行進して段の上のばりました。卒業式は大変です。なぜかという入学して

修会があります。カルガリー大学では沢山のビデオ見せられます。セクシユアル・ハラスメントのビデオを見せられます。

そしてそのビデオを見た感想を述べ合います。私も新任客員教授としてビデオ見ました。大勢で新任の人達と見るのですが、人によって反応が違います。こんなのセクハラになるのかと思つた人は言ってもいいんです。そのように思つたらいけないということはないんです。じゃあどうしてこれをセクハラつて学生さんは言うのだろうかというのを学生の立場から聞き、そこで意見を交換しながらセクシユアル・ハラスメントとは何か、人権を守るのはどうしたらよいか、ということを読んでいきます。皆さんも読んでください。

時間になりましたが私達一人ひとりとは違います。その違うよさを生かしていく、共に生きていく、良さを生かして共に生きていくにはどういう教育をしたらいいのか、どういう制度を作つたらいいのか、どういう社会を作つたらいいのか。それはみんな勉強です。学習です。これから皆さん授業に出てそして自分で勉強して人権が保障できる社会というのを皆さんの手で作ってってください。地球の破壊、人類の破壊を救えるのはあなたです。私達です。だから大いにそのために私達自身が考えて行動していきましょう。後はもうみなさんのこれから受けられる授業に期待しています。これで私の話を終わります。みなさん静かに真剣に聴いてくれて、とっても嬉しいです。あ

もなかなか卒業できないからです。学部ごとに、場合によっては学科ごとに卒業式をします。なぜでしょうか。親や親戚がいっぱいきて、大講堂がいっぱいになるから。一度でできない、それくらい大感激の卒業式なんです。ひとりひとり学長と抱き合つて卒業証書もらいます。卒業式に参加するために、カナダ中から親兄弟、祖父母が集まりますから早くからホテルを予約しておかないといけません。卒業式はこのような大騒ぎですが、入学する時、入学式はないんです。入学式はありませんが、今日のようなこういう講座や、これから大学生活を送る上での指導があります。カナダのカルガリー大学では、セクシユアル・ハラスメント防止、その他人権問題に関して、演劇を行います。演劇クラブの人たちが一時間半に及ぶ歌と踊りとお芝居を上演してくれます。その中でセクシユアル・ハラスメントにあつて困つたら、どうしたらいいか、ということをお話してくれます。セクシユアル・ハラスメントだけではなくアカデミック・ハラスメントについてもです。アカデミック・ハラスメントってなにか。みんな勉強してください。"DRUG ABUSE"友だちから飲みに行こうと誘われた。深夜に飲みに行つたら知らないうちにお酒の中に何か入れられた。それを飲み始めるともう我慢できなくなつた。お金を払つてその薬をもらうようになった。そういうのを全部演劇を見て勉強します。先生方にも大変な勉強があります。佛教大学も先生方のハラスメントの研

りがとうございました。

